

厚生労働省の「第1回公認心理師試験（平成30年9月9日実施分）に係る試験問題の取扱いの訂正とお詫び」（https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04311.html 2019年4月3日付）発表を受けての小社刊『第1回公認心理師試験 問題と解説』著者からのコメント

【問20】

2018年11月30日付の厚生労働省の訂正発表で、③も④も正答になったことを受けて解説を行いました。④を○として解説すべきところ、×を○に訂正できておりませんでした。お詫びして訂正させていただきます。

【問131】

2019年4月3日付の厚生労働省の追加訂正発表で、選択肢が不明確であるために正解を定めないことになったことを受けて解説を加筆訂正させていただきます。

③について

成書に関する記載部分を、以下のように訂正させていただきます。

（訂正前）

…しばしばみられるが必発ではない。成書には、「歩行障害や運動麻痺、言語障害、排尿障害が早期にみられる」との記載があるので本選択肢を正答とすることが妥当である。ちなみに歩行障害と尿失禁、認知機能低下は…

（訂正後）

…しばしばみられるが必発ではない。しかし一方で成書には、「歩行障害や運動麻痺、言語障害、排尿障害が早期にみられる」との記載がある。ちなみに歩行障害と尿失禁、認知機能低下は…

④について

最新の各種情報を踏まえ、以下のように追加記載させていただきます。

…この2疾患で原因の約3分の2を占める。

（この後ろに以下を追加挿入）

2017年1月厚生労働省が関係府省庁と共同で策定した「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」は認知症高齢者に焦点を当ててまとめられたものであるが、その中で若年性認知症施策の強化を挙げている。若年性認知症の原因疾患の第1位はAlzheimer型認知症であるとの少なからずの報告が認知症を専門とする医療機関から発信されている。なお、日本認知症学会をはじめ、国立長寿医療研究センターや東京都健康長寿医療センター研究所等が調査研究を進めており、正式なデータが近く発表されると予想される。